

JAL×TSK)「じぶんごと」子どもたちが奮闘SDGs活動 給食を残さない！日常生活で学ぶ (米子市)

TSK TSKさんいん中央テレビ



TSKとJALがタッグを組んだプロジェクト企画の第2弾。

JALふるさとアンバサダー・真辺麻未さんとともにお伝えします。

全国・そして世界を知るJALは、客室乗務員たちがゆかりのある地域に移住し、特産品のPRや地域資源を活用したコンテンツの創出などを行う応援事業をスタート、このプロジェクトではTSKと一緒に山陰を新たな視点で取材し魅力を発掘しながら地域の活性化につなげます。2回目の今回は、小さな子供たちが取り組むSDGsです。

子供たち自ら地球環境のことを自分事としてとらえ、フードロスを無くすことなどSDGsを身近に学んでいました。子供たち、そして幼稚園の思いを取材しました。

やってきたのは、鳥取県米子市のかいけ幼稚園。

園児

「先生、みなさん、いただきます！」

待ちに待った給食の時間です。

JALふるさとアンバサダー・真辺麻未さん：

「どうですか？給食は？」

園児

「たまご～！」

その給食、よく見てみると…子供たちによって量が違うようです。これはいったい？

JAL・真辺麻未さん

「お子さんによって量が違うようなのですが…」

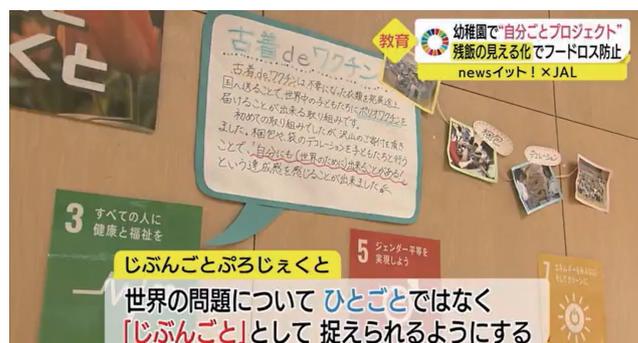
かいけ幼稚園・長谷川小春先生：

「自分が完食できる量を把握して、その量に対して前向きに食事をしていくということを大切にしている」

給食を残さない！これがかいけ幼稚園で実施しているSDGs推進活動の一つです。国連が提唱するSDGs・持続可能な社会を目指す活動の取り組みとして、この園では「じぶんごとぶるじえくと」と題し、世界の問題についてひとつではなく『じぶんごと』として捉えられるような活動をしています。

例えば…古着を回収して発展途上国へ送り現地の雇用やポリオワクチンの接種につなげる「古着deワクチン」(1番目・つくる責任つかう責任)や美しい環境を守る意識を高めようとする地元の海岸清掃(14番目・海の豊かさを守ろう)など5つの項目のSDGs推進活動を行っています。

中でも、給食は子供たちにとってより身近に感じられる取り組みの一つです。



給食は残さず食べる！これ以外にも…。

JAL・真辺麻未さん：

「Q、これはなんですか？」

かいけ幼稚園・長谷川小春先生：

「これは給食の残飯ですね、残ってしまった量を少しでもわかりやすいように最近始めた活動です」

残飯量の見える化です！さらに給食に出る野菜は食べるだけでなく園所有の畑で実際に自分たちで栽培し、そこで育てた野菜を美味しくいただく。つまり、育てる・食べる・活用するなど、給食を通してつくる責任・つかう責任を実践しています。

JAL・真辺麻未さん：

「実は、JAL Agri port 社でイチゴなどを栽培していて、地域の方と収穫作業を一緒にしたり、それを農家レストランで提供したり、商品と一緒に開発したりしている。(SDGsについて) 楽しいからやるということで、より園児のみんなも意欲的にこの活動に取り組めるのではないかなと思う」

園児：

「お洋服を片付けた遠くのね、お洋服がない人に」

園児：

「海でゴミ拾いをした」

かいけ幼稚園・長谷川小春先生：

「ぼくにもできることわたしにもできることに気づいてほしいなと。SDGsが頑張らないといけないことというよりは当たり前のことになっていくように生活の中に溶け込ませていけたらと思う」

山根キャスター：

「今回は米子市の子どもたちと触れ合いながらの取材でした」

JAL・真辺さん：

「まずは子どもたちの元気さにパワーをもらいました。また元気だけでなく、園児たちが日常生活の中でSDGsを学んでいるその姿に驚きました」

山根キャスター：

「子供たちが幅広く質の高い教育に触れる中で、給食を通してフードロスを減らす取り組みは非常に特徴的でしたね」

真辺さん：

「フードロスは世界中でも問題になっており、JALでも食品廃棄削減に取り組んでいます。例えば機内でゆっくりお休みになりたいお客様に、機内食を事前にキャンセルいただくミールスキップオプションというサービスを行っています。これは、フードロスをなくすため幼稚園での適量を盛り付ける取り組みと共通することだと感じました」

原田キャスター：

「今回の取材で感じた山陰での気付きはどのような点ですか」

JAL・真辺さん：

「今回のように、小さなうちから学ぶことで魅力ある人が育ち、それが将来的に魅力ある地域づくりにつながるのではと感じました。今回の子どもたちのSDGsのテーマは「じぶんごととして考える」でした。私たちも改めて自分事として考えられることから実践していきたいと感じています」

